

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議は2カ月に1回、年6回定期開催されていますが、議題は行事や利用者の生活状況報告が主で、利用者、家族の要望や助言、サービス提供状況評価に対する内容の報告に不足している。利用者、家族、地域代表、行政職員の構成にあり、内容をもっと濃く、資料準備提供できる必要性を感じています。	利用者、家族の要望や意見、助言、日常の気づき、ヒヤリハット、事故報告についても活発な意見、情報共有の機会になり、サービスの質向上への取り組み、地域密着型機能の運営に活かせるようにする。	ヒヤリハット、事故報告書マニュアル作成はありますが殆ど利用がされていない。毎月の会議、勉強会において話し合ったり、利用者や家族からの要望や意見、助言を行った内容の記録を残せるようにする。各種の行事、活動等も併せて報告できる機会にする。	6ヶ月
2	35	防災設備の整備点検は実施されていますが、地域の協力体制には至っていない。災害問題は社会の大きな話題になり特に高齢者を取り巻く環境にも重点的な指導査察が行われ安全管理面の強化が高まる。年2回以上の防火避難訓練計画しますが、消防立会いによる日程調整が困難で自主訓練や勉強会に変更する事が度々ある。防災意識、管理、取り組みが重要。	災害から利用者、職員の身体保護、生命の安全を守る。火災問題に止まらずに、台風や地震、災害にも目を向け、地域連携の支援体制を整備できるようにします。	兼城ハイツ自治会住民との協力、連絡網の体制を整え、年2回以上の訓練（消防立会い・自主訓練・防災に関する勉強会を実施できるようにする。避難場所、備蓄の確保。	6ヶ月
3	40	おやつ作り、記念行事には家事活動として楽しんで作ったりしますが、日常の食事は母体より三食（主食以外）配食を依頼している。献立や食材の買い出し、食事作り、配膳下膳の活動を一緒に行う方もいますが、一方では職員が行うべきと主張する方もいる。声かけの方法だと思いますが重度化で出来る方も限られているのも現状です。	家庭的な環境、雰囲気を中心に食の大切さ、メニュー作成や食材の買い出し、食事の活動を行うことにより食への意欲、関心を持ち、楽しく食事することができる。グループホームの姿勢を目標にしていきます。	食事活動が行える利用者3名。立って一緒に調理ができる1名。調理の準備、片付け、食器洗い可能2名。おやつ作りと、朝食作りから計画していく。週間献立表作成、広告品を見ながら買い物。母体、管理栄養士、給食委員会の連携も図りながら実施していきます。	6ヶ月
4					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。